

取締役会議長メッセージ

取締役会の実効性を高め 中長期的な企業価値向上を目指す

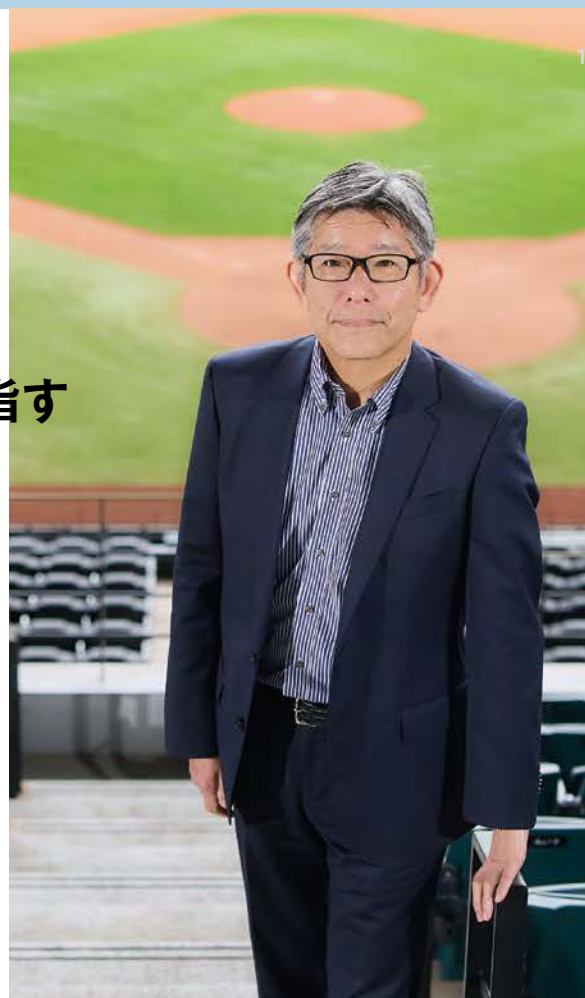
この1年の振り返りと実効性評価に関する
所感・評価をお聞かせください。

2023年度の実効性評価の全体評価は、ポジティブな評価が4.6ポイント上昇し、改善が進みました。特に、企業倫理、リスク管理は3年連続で高く評価されています。一方で、経営戦略や事業戦略に関する評価は低く、中でも「監督と執行の分離」や「資本コストを意識した全体最適視点からの経営資源の配分」については改善する必要がありますと考えています。

私は、2023年4月に取締役会議長に就任しました。役職は社内取締役ですが、執行側と監督側の中立的な立場で取締役会を運営することに重きを置いて活動した1年でした。

取締役会議長の就任前に、取締役会の運営について目標を5つ決めました。1つ目は議案設定の改善です。取締役会の会議時間が他社と比べて少し長めと評価されていることから、議案の選定や報告事項の簡素化などで会議のスリム化・適正化を図りました。

2つ目は経営戦略に関する議論の活性化です。これは2023年度の実効性評価の中で経営戦略に関する議論に不足感があると指摘があったためです。



取締役会長 取締役会議長 木藤 哲大

3つ目は提供される情報の量と質の確保です。各担当者からの報告の書式や内容はコンパクトにするよう要請しました。四半期ごとに行われる各本部の執行報告については、数十ページ以上の報告資料がありましたが、要点を絞りコンパクトにしてもらいました。これにより、第3四半期からは改善したと感じています。

4つ目は監督と執行のコミュニケーション強化です。取締役会の中だけでなく、普段の業務の中でも社外取締役

と社内取締役がコミュニケーションの場を取っていただけるよう取り組みました。

5つ目は経営戦略の進捗状況の確認・監督です。特に、実効性評価の中で指摘された「資本コストを意識した全体最適視点からの経営資源の配分」に関する経営戦略の進捗については注視しました。

企業価値の向上に向けた
今後の抱負をお聞かせください。

取締役会における議論の活性化に向けて、あらゆる角度から議論・意思決定を行うことで、気づきや相互チェックを促すことが重要です。社外取締役、社内取締役それぞれの知見や多様性を活かして議論・意思決定のプロセスに参加してもらいたいと考えています。

また、当社グループは一次産業に近い農業・畜産をベースとしており、国内最大級の動物性たんぱく質供給企業です。Vision2030「たんぱく質を、もっと自由に。」を実現するためにも、従業員に我々の存在意義をしっかりと理解してもらう必要があると思います。それがひいては、従業員の働き甲斐やロイヤリティ向上、挑戦する組織風土の醸成につながると考えています。

そして、当社グループの企業価値を向上するためには、株主・従業員だけでなく、消費者や社会などのあらゆるステークホルダーの利益を考慮した意思決定が必要です。そのための橋渡し役が私の役割だと認識し、さらなる実効性評価の改善を進めていきたいと思っています。